

チューリップ
Tulipa gesneriana
 (ユリ科)

りん茎で繁殖する球根植物である。切り花としての利用はあまり多くないが、シングルレイトの品種を中心に11月～5月に市場に出荷される。青を除き花色が揃っているとともに、八重咲き、百合咲き、フリンジなど花形のバリエーションも豊富である。高温下では急激な品質低下を引き起こす。また、品種によっては花茎が収穫後に徒長しやすく、曲がりやすい。水あげは容易であり、品質保持剤の処理はあまり有効ではない。

1) 品質評価基準

項目	判定基準	備考
花被の萎れ・褐変	A: 発生なし C: 弁縁が萎れる(巻き込む) D: 花被が透きとおって、全体に萎れる、あるいは壊死・褐変が生じる	
花被の退色	A: 退色なし B: わずかにくすむ C: 退色する D: 激しく退色するあるいはブルーイングが発生する	
茎葉の黄変・褐変	A: 黄変・褐変なし B: 最下位葉の葉縁が黄変する C: 黄変が下位葉全体に広がり、上位葉にも発生する D: 葉全体が黄変する、もしくは褐変が生じる	
花茎の曲がり・折れ	A: 直立する B: 徒長する C: しだれる D: 折れる(トップル)	トップルはカルシウム欠乏で生じやすくなる。
その他	灰色カビ病, D: ガモーシス, D: 落弁など	

2) 留意点

評価温度を20℃とする。

葉腋に入っている土を洗い流してから生ける。

エチレンに感受して粘液が葉や花茎から出る場合がある(ガモーシス)。

品種によっては昼間花卉が開きすぎる場合がある。

3) 開花





4) チェック事項



花茎の曲がり・折れ



葉の黄変・褐変



花被の萎れ・褐変

